

平成 20 年度第 1 回海岸工学委員会 議事録(案)

日 時：平成 20 年 6 月 18 日(水)14:00～16:30

場 所：土木学会 2 階講堂

出席者：水口相談役，磯部委員長，佐藤幹事長

青木，荒木，池谷，伊藤，宇都宮，大平，大山，栗田（代理：梅野），黒岩，黒木，五明（代理：津田），坂井，柴山，清野，武若，丹治，野田，畑田，半沢，間瀬，水谷(法)（代理：川崎），村上，山本，横木，岡安，木村，栗山，後藤，榊山，清水，諏訪，高木，中山，灘岡，橋本，由比，岩西（事務局）（敬称略）

0. はじめに

- ・ 磯部委員長より，平成 20 年度第 1 回海岸工学委員会の開会挨拶があった。
- ・ 佐藤幹事長より，委員・幹事に交替があった旨，報告があった（上野委員→伊藤委員，福浜委員兼幹事→諏訪委員兼幹事，岸田委員→野田委員）

議事

1. 前回議事録の確認（佐藤幹事長）

以下の議事録を海岸工学委員会 HP で確認するよう要請があった。

- ・ 平成 19 年度第 2 回海岸工学委員会議事録(案)
- ・ 平成 19 年度第 2 回海岸工学幹事会議事録(案)

2. 報告事項（佐藤幹事長）

- ・ 海岸工学委員会の活動は高い評価を受けているが，予算は年々減少しているとの報告があった。

3. 第 55 回海岸工学講演会（海岸工学論文集第 55 巻）応募論文審査について

（間瀬委員，佐藤幹事長，川崎幹事）

- ・ 第 1 段審査通過論文数は 305 編（採択率 78.4%）であり，評価総点 18 点以上の論文が 284 編，17 点の論文が 21 編であった。ただし，17 点の論文は採点が 33344 のみを採択した。
- ・ 18 点以上の論文のうち，評価 1 点の論文が 2 編あった。その理由は，海岸工学分野と大きく異なる分野の論文であると判断されたためである。海岸工学分野と異なると思われる投稿論文の取り扱い方について協議した結果，①現状では第 1 段審査で 5 名の査読者が判定していること，②評価 1 点がついた場合は委員長，幹事長，論文集編集小委員長・副小委員長で協議していること，さらに③海岸工学分野との境界領域の拡大も考慮すると，現状のシステムで特に問題ないことを確認した。
- ・ 発表論文数，各分野の応募数・採択率の推移について説明があった。

- ・ 第2段審査以降のスケジュールについて説明があった。特に、第2段審査でC判定となった論文に対する再審査は、AあるいはDのどちらかで判定するよう要請があった。なお、D判定の場合には、論文集編集小委員会に事前に連絡すること。
- ・ 第2段審査後の原稿提出方法について説明があった。
- ・ 1人の発表者が1論文発表となるように徹底した旨、報告があった。
- ・ 第2段審査の結果、第1段審査通過305編のうち297編を採択する予定との報告があった。なお、残り8編の内訳は次のとおりである。1編：二重登録のため削除、6編：辞退（辞退論文と著者を委員会で提示）、1編：不採択（D判定）。

4. 海岸工学論文集第56巻について（佐藤幹事長）

- ・ 海岸工学論文集第56巻の論文投稿と査読の流れについて説明があった。
- ・ 海岸工学論文集第56巻の査読者リストが提示され、承認された。
- ・ 海岸工学論文集第55巻の第1段・第2段審査の査読者別評価点について報告があり、査読者によって平均点が大きく異なることが指摘された。第56巻では、第55巻での第1段審査と第2段審査の査読者平均点を明示した上で、査読依頼することとした。

5. 海岸工学論文集の出版形態について（佐藤幹事長，武若委員）

- ・ 電子ジャーナル実現までの論文集の出版形態として、①現在の形態を維持（モノクロ、CDなし）、②現在の形態+CD、③カラーPDF印刷+CD、④2頁アブストラクトのみをカラーPDF印刷+CD、⑤カラーPDFのCDのみなどが考えられ、今後、論文集編集小委員会内の出版形態WGで引き続き検討することとした。
- ・ 海岸工学論文集を、発行2年後、土木図書館のインターネット上で一般公開することが承認された。

6. 第55回海岸工学講演会（富山市）の準備状況について（由比委員兼幹事）

- ・ 第55回海岸工学講演会の準備状況として、開催日、開催場所、発表方法、見学会、前日シンポジウム、懇親会、予算、助成金申請手続き等について確認報告があった。
- ・ 前日シンポジウムの開催時間が17:00～20:30と少々長いとの意見があり、時間を短縮する方向で検討することとした。
- ・ 見学会の予約は事前に行うよう要請があった。

7. 第56回海岸工学講演会（水戸市）会の開催について（横木委員）

- ・ 第56回海岸工学講演会（水戸市）の準備状況について報告があった。開催日は平成21年11月18日(水)～20日(金)で、場所は茨城県立県民文化センター（予約済）である。
- ・ 今後、見学コース（2コースを予定）、懇親会会場（水戸駅周辺ホテルを予定）、予算（会議開催誘致制度がない）などを協議する予定とのこと。

8. 第57回海岸工学講演会（関西地区）の開催について（後藤委員兼幹事）

- ・ 講演会は京都で、見学会は大阪で開催する方向で検討中との報告があった。なお、講演会場候補は京都テルサ、懇親会会場は京都駅周辺ホテルを予定しているとのこと。

- ・ 開催日は、平成 22 年 11 月 10 日(水)～12 日(金) (第 1 案), 平成 22 年 11 月 17 日(水)～19 日(金) (第 2 案) を考えている旨, 説明があった。
- ・ 実行委員会の体制は以下のとおりである。
 - 実行委員長 : 出口 (大阪大学)
 - 実行委員長補佐: 間瀬 (京都大学防災研究所), 後藤 (京都大学)
 - 実行委員 : 重松 (大阪市立大学), 荒木 (大阪大学), 水谷 (大阪産業大学), 森 (京都大学防災研究所) (今後増員予定)
 - 講演主担当 : 京都大学間瀬・後藤研究室
 - 見学会主担当 : 大阪大学出口研究室
- ・ 宿泊については、旅行会社を通さないため、各自で早めに予約するよう要請があった。

9. Coastal Engineering Journal について (柴山委員)

- ・ CEJ の投稿・購読状況について報告があった。なお、購読状況は増加傾向とのこと。
- ・ CEJ に「テクニカルノート」を新規設ける方向で検討中との報告があった。

10. 研究小委員会等の活動について

(1) 沿岸域研究連携推進小委員会活動報告 (青木委員)

- ・ 平成 19 年度第 2 回小委員会 (平成 19 年 11 月 8 日開催), 第 19 回沿環連ジョイントシンポ (平成 20 年 3 月 16 日開催) の報告があった。
- ・ これまでの委員会活動を取りまとめて、海洋開発論文集 Vol.24 に論文を投稿した旨, 報告があった (論文題目: 海岸の安全利用からみた静穏時離岸流の現地調査－研究者, 実務者と海岸利用者との連携の試み－, 著者: 青木・上野・西・小峯・石川・堀口)。
- ・ 第 55 回海岸工学講演会前日シンポジウムでは、静穏時の危険性予測技術の検証, 構造物の性能設計への提言をテーマにする予定との説明があった。

(2) 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会活動報告 (今村委員: 代理・佐藤幹事長)

- ・ 配付資料を参照とのこと。
- ・ 平成 20 年度重点研究課題 (研究助成金) に、研究課題名「津波防災教育体系の確立」が採択された旨, 報告があった。

(3) 数値波動水槽小委員会活動報告 (後藤委員)

- ・ WG-C が 4 月に土木学会にて開催, WG-A, WG-B はメール等で個々に活動している旨, 報告があった。

(4) 地球温暖化適用策検討小委員会活動報告 (横木委員)

- ・ 資料に基づき, 小委員会活動報告があった。また, 洞爺湖サミットに向けて, 海岸工学委員会からの提言案を作成する予定との説明があった。
- ・ 副小委員長に小林委員 (岐阜大学) を, 幹事に関本委員 (五洋建設), 岡安委員 (東京海洋大学), 栗山委員 (港湾空港技術研究所), 武若委員 (筑波大学) とした委員会体制が提案され, 承認された。

(5) 広報小委員会活動報告 (武若委員)

- ・ 資料に基づき, ウェブの移設 (平成 20 年 1 月より運用), 海岸工学データベース移設の準備状況, 海岸災害ライブラリに関する検討状況について報告があった。

- 論文データ（題目、著者、文書データなど）の作成には、約 10 万円（約 300 円/1 論文×300 編）の経費がかかる旨、報告があった。

11. 第 44 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催について（岡安委員）

- 夏期研修会が、平成 20 年 8 月 5 日(火)～6 日(水)の期間、東京大学にて開催される旨、報告があった。B コースの総合テーマは「気候変動の海岸防災への影響」である。
- 佐藤幹事長より、第 45 回は海岸工学委員会が主担当であるため、開催地を今後検討する必要があるとの指摘があった。

12. その他

(1) 会長特別委員会「地球温暖化特別委員会」幹事会報告（横木委員）

- 会長特別委員会は、3 つの小委員会（温暖化影響、緩和対策、適応策）で構成されており、地球環境委員会を中心に、土木学会の各種委員会で検討されていることを取りまとめて、発信することが主な目的であると説明があった。
- 7 月 2 日(水)に土木学会地球温暖化対策特別委員会シンポジウム（定員 400 名、参加費無料）が開催される旨、説明があった。申込締切日は 6 月 25 日(水)である。すでに 300 名登録済みであるため、興味のある方は早めに事前登録するよう要請があった。

(2) ミャンマーサイクロン被害調査（柴山委員、岡安委員）

- 柴山委員より、「2007 年バングラデシュ・サイクロン SIDR 高潮水害」調査報告書に基づき、被害調査の報告があった。
- 岡安委員より、7 月 2 日(水)～9(水)の期間、ミャンマーサイクロン被害調査を実施する旨、説明があった。

(3) 国際会議の紹介（佐藤幹事長）

- 国際侵食学会（東京）、APAC2009（シンガポール）、Coastal Dynamics 2009（東京）、Breakwaters（英国）の国際会議について紹介があった。

(4) 今後の委員会・幹事会のスケジュール（佐藤幹事長）

- 9 月 25 日(木)14:00 に幹事会、11 月 12 日(水)18:00 に委員会が開催される旨、説明があった。

文責：川崎浩司（名古屋大学）